



広島市教育センター

**11** 月号

- ◆ 1 ページ
  - ・ 研修紹介 (通級指導教室等新規担当教員研修他)
  - ・ 学校紹介 (戸山小・中学校)
- ◆ 2 ページ
  - ・ 授業づくりシリーズ 学ぶ意欲が高まる授業を目指して (中学校数学科編)
  - ・ 教育センター情報 (おすすめ図書他)

**研修紹介** 発達障害への有効な支援

通級指導教室等新規担当教員研修  
通級指導教室等担当教員研修

9月5日、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 岩永 竜一郎 教授をお迎えし、通級指導教室等担当教員を対象とした研修を実施しました。岩永先生には、「**発達障害のある子どもの社会性を育む支援の在り方**」と題して講義をしていただきました。講義では、**発達障害の特性を理解**するとともに、**特性に合わない関わりの例**を挙げながら、**有効な支援**について教えていただきました。その中から3つの具体例を紹介します。

講義内容 ねらい	特性に合わない関わりの例	発達障害の特性	有効な支援
情報を正しく伝えるには	口頭だけで伝える 	相手に合わせて注意を向けることが苦手です。タイミングがずれると情報を逃してしまうことがあります。また、集中の持続や、ワーキングメモリの弱さがあるため、聞くだけでは記憶に残りにくい傾向が見られます。	視覚支援を活用する 
他者の気持ちに関心をもたせるには	ネガティブな気持ちばかり伝える 	人への関心が薄く、他者の気持ちに注意を向けにくい傾向があります。場に合わない行動をして誤解されることもあるため、ますます他者の気持ちに関心を持ちにくくなる場合があります。	ポジティブな気持ちを伝える 
適切な行動を身に付けさせるには	問題行動の時だけ注意する 	問題行動が起きた時に修正するばかりでは前向きに取り組みにくく、自尊心も傷つきます。望ましい行動をしている時に、肯定されることで自信をもって行動できるようになります。	あたり前のことでもできている時にほめる 

**学校紹介** 地域の実態に合った防災教育

戸山小・中学校

戸山小・中学校区は、過去に自然災害による被害を受けていることから、**地域のほとんどが土砂災害の危険箇所**に含まれています。その範囲には家や通学路、学校のグラウンドなどが含まれています。文部科学省では、学校における防災教育の目標を「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動を取るための判断に生かすことができる」としており、戸山小・中学校では、**過去から学び、地域の実態に合った防災教育**を行っています。多くの取組の中から、今回は地域で起こりやすい災害や、戸山小中学校区における防災の工夫について学ぶ「**戸山探検**」について紹介します。



平成11年、いつもは通学路として利用している道に川の水や山側からの雨があふれ、道路が寸断された。

**戸山探検**

「戸山探検」とは、戸山の危険箇所や過去の災害について学んだり、身近にある防災の工夫について調べたりする学習です。地域の方から災害等について直接教えていただいたり、自分たちの住んでいる地域を防災の観点で見直したりすることにより、防災への関心を高めることができます。

<p><b>地域の実態把握</b></p> <p>民俗資料館で、役場の方や地域の方から<b>戸山の危険箇所や過去の災害</b>について直接伺います。</p>	<p><b>防災の工夫</b></p> <p><b>土砂災害を防ぐ砂防堰堤</b>(えんてい)。他にも避難場所や雨量計などの施設についても学びます。</p>	<p><b>防災マップの作成</b></p> <p>学んだことや家族と一緒に調べたことをまとめ、<b>防災マップ</b>を作成します。公民館にも提供しています。</p>
--------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

～子どもの心に  
火をつける～



# 学ぶ意欲が高まる授業を目指して

子どもたちの「学ぶ意欲」を高めるためには、学習過程の中の「導入場面」「課題認識場面」「課題解決場面」「振り返り場面」の中で、子どもが主体的になれる活動を仕組むことが重要です。今回は、「課題解決場面」に視点を当てて、子どもの考えを段階的に深める指導の工夫を紹介します。

## 課題解決場面

## 段階的に深める指導過程の工夫

## 中学校数学科編

数学科では、単に問題を解決することのみならず、問題解決の結果や過程を振り返って、得られた結果を捉え直したり、新たな問題を見いだしたりすることが大切です。授業において、子どもたちは多様な考えを發表します。しかし、それらの考えについて、発想や課題解決の過程、差異や特徴、つながりやよさにふれることなく、教師が予定していた考えにまとめる状況が一部に見受けられます。今回は、教師が一方的にまとめるのではなく、課題解決場面において、子どもたちの考えを明確な視点をもって振り返らせ、段階的に深める指導過程の工夫をした実践事例を紹介します。

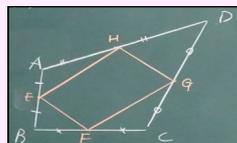
中学校第3学年  
「平行線と比」  
翠町中学校  
河内 美保 教諭の  
実践より

### 課題

四角形の各辺の中点を結んでできる四角形は、必ず平行四辺形になるのはなぜだろう

個人で考えたことやペア・グループで話し合ったことを全体で発表させる

多様な考えをもとに交流させる

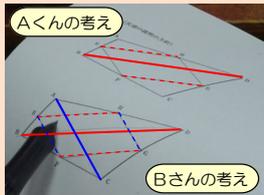


### ★段階的な指導過程の工夫（視点の明確化）

#### ステップ①

＜振り返りの視点＞  
発想や課題解決の過程

Aくんの考えは、補助線を1本だけ引いて、2つの三角形を作り、中点連結定理を使って証明しているね



Bさんの考えは、補助線を2本引き、4つの三角形を作り、中点連結定理を使って証明しているね

#### ステップ②

＜振り返りの視点＞  
考えの差異や特徴

二人の考えを比べると、補助線の引き方と、証明で使った平行四辺形になるための条件が異なるね

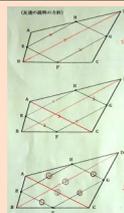


Aくんの考えは、補助線が1本で、図や説明がすっきりしているね

#### ステップ③

＜振り返りの視点＞  
考えのつながりやよさ

どの考えも、中点連結定理を使うために補助線を引いて、平行四辺形になることを証明しているね



補助線を引いたら、これまで学習した図形の性質を使って、証明することができるね

全体で確認する

子どもたちの考えが深まる

課題解決

## おしらせ

教育センターはみなさんの自主研修をサポートします

### おすすめ図書

『小学校教育課程実践講座（全14巻）』および『中学校教育課程実践講座（全13巻）』を購入しました。改訂に伴い、ねらいを具体化する視点や手立てが解説してあります。現在出版されているものは表の通りです。出版され次第随時配架していきます。

小学校	中学校
・総則 ・理科 ・外国語 活動 外国語	・総則 ・国語 ・理科 ・外国語

この他、センター所蔵図書の検索はこちらから

[http://10.91.11.103/libra/tosyo\\_search.aspx](http://10.91.11.103/libra/tosyo_search.aspx)

### 教育実践サポート

月1回の土曜開館の際に、指導主事に直接相談することができます。事前に予約することもできますので、ぜひ活用してください。

12月担当	担当業務
北谷 一水	2・3年次研修 健康教育 体育・保健体育科